

2021年度 個人研究実績・成果報告書

2022年4月23日

所属	人間社会学部	職名	教授	氏名	勅使河原 隆行
研究課題	地域共生社会に関する研究 ～ソーシャルワークの視点を踏まえて～				
研究キーワード	地域共生社会、ソーシャルワーク	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	3. すべての人に健康と福祉を	10. 人や国の不平等をなくそう	11. 住み続けられるまちづくりを	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>2021年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の変異株が次から次へと登場し、一向に収束（終息）する気配がなかった。日本においては急速な感染拡大が生じると、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発出され、その都度、国民の行動が制限されていた。また大学においても出張やフィールドワークといった研究活動が制限され、当初の計画どおり研究が進まない部分もあった。特に本研究では、フィールドワーク調査や大学生による支援活動を実施するという手順で研究を進めることを計画していたため、新型コロナウイルスの影響はとてもし大きかった。しかし、このような状況下でも文献調査やオンライン上でのインタビュー調査を実施することができた。なお、このオンライン上でのインタビュー調査は日本国内だけではなく、台湾国立中正大学の呉啓新副教授の協力を得て台湾でも実施した。また研究成果については、学会の全国大会でも報告を行った。</p> <p>このコロナ禍は、感染者に対する差別や偏見による地域の分断、雇用機会の喪失により労働者の失業による生活困窮などが生じ、地域社会や人々の姿を大きく変化させてしまった。全国各地でコミュニティが崩壊し、地方においても過疎化だけではなく地域経済の崩壊など様々な問題が派生している。本研究では、ソーシャルワークの視点による地域共生社会に焦点を当てて、地域共生社会の実現に向けた方策を探ることを目的としており、引き続き2022年度以降も継続して研究を実施したい。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【著書】</p> <p>「入門社会保障」川村匡由（編集）・勅使河原隆行 他、2021年、ミネルヴァ書房、共著。担当箇所は第7章である。</p> <p>第7章諸外国における社会保障制度</p> <p>1 諸外国における社会保障制度の概要</p> <p>2 社会保障制度の国際比較</p> <p>【学会発表等】</p> <p>「ソーシャル・ビジネスと共生社会」第3回日本共生社会推進協会（学会組織）全国大会、2021年10月</p> <p>3. 主な経費</p> <p>研究のために使用する各種消耗品、学会年会費などに、適正に使用した。</p>					

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【国際研究活動】

- ・台湾国立中正大学社会企業研究センター 副センター長

【学会活動】

- ・日本共生社会推進協会（学会組織） 副理事長
- ・日本福祉図書文献学会 関東支部長・理事